



日本留学を通して、 一回り大きく成長したい

聖泉大学 人間学部3年生 向 晴

3年前、私は涙を流しながら両親と別れ、留学の途に就きました。来日直後、先生のところへ挨拶に行き、自己紹介をする時、緊張して自分の名前の後ろに「さん」つけをしてしまったことを今でもはっきり覚えています。そこから、私の日本留学の生活がスタートしました。

最初は異国での不安と寂しさに耐えきれず、一人で泣いた日がよくありました。しかし、時間が経つとともに、次第に大学の勉強に取り組み、留学生仲間との交流も増え、精神的にゆとりができるようになりました。そして勉強の合間にアルバイトをすればじめると、ますます忙しくなり、余計なことを考える時間さえなくなりました。

来日後、文化の違いや言葉の壁などもあって、日本人の友達がすぐにはできませんでした。ところが、日本人学生と一緒に受講したり、先生といろいろと話をしたりしているうちに、日本語が上手になり、自信もだんだん取り戻してきました。また、学内外のさまざまな活動やイベントに参加して、日本人の友達がたくさんできました。初めての浴衣姿、初めてのお祭り参加、初めて日本人の友達に家へ招かれたことなどで、日本留学生活の楽しさをいっそう深く感じるようになりました。一番印象に残っているのは、友達が住んでいた地域の子どもの祭りでした。子どもたちは、外国人であることを全く気にする様子も無く、遊び方をいろいろと教えてくれたり、あっちこっちのゲームに私を引っ張ってくれたりして、外国人の私を素直に受け入れてくれた子どもたちの純真さに感動しました。

ちなみに、滋賀で生活して地域間の言葉の違いに気づき、その面白さに惹かれました。滋賀では、人と話をする時よく「あほうか、あほうか」と言

います。最初は、なんで人の話を聞いて「阿呆」というのか、不思議でたまりませんでした。その理由を友達に聞くと、それが滋賀の方言で「あ、そうか」という意味を知って、思わず笑ってしまいました。

現在、大学3年生で心理学や経営学などを勉強しながら、いろいろな資格取得支援講座も受講しています。ゼミでは先生がいろいろな企業の事例を紹介してくださって、みんなでそれについて議論し分析することによって、ビジネス社会のことをよりリアルに感じられます。そろそろ、卒論作成の準備に着手しなければならない時期にきています。どんなテーマを選び、どのように仮説を立て研究を展開するのか、悩んでいるところです。

日本に来て4年目となりました。楽しい時も苦しい時もありましたが、先生や友達に支えられ、大きく成長したことを実感しています。日本へ留学に来て本当によかったと思います。大学卒業までわずか1年半となりましたが、今まで以上に時間を大切に、貪欲に勉強していきます。

支援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。
(平成22年7月記)



学友とともに行った京都旅行で